

2014 年度台北事務所主催日本語教育研修会（報告）

「会話能力を評価する-JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイテストの紹介-」

古川嘉子（国際交流基金日本語国際センター）

* 「JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイテスト」のテスト用キット（マニュアルやロールカードなどの資料、音声や映像の公開先リンク PDF）がウェブで公開されました。

http://jfstandard.jp/summary/ja/render.do#role_play_test

また、「JF 日本語教育スタンダード」サイト (<http://jfstandard.jp/>) から行くことができます。どうぞご利用ください！

研修会では、国際交流基金が開発した「JF 日本語教育スタンダード準拠ロールプレイテスト」を紹介し、実際にテストをやってみることで、参加者のみなさんと口頭のやりとりの能力とその測定について考えました。

まず、参加者の方々の会話テストの経験について聞きました。多くの方がすでに会話テストを実施した経験を持っていました。そこで、様々な課題を感じているということでした。教室で口頭能力を測る際には、様々な難しさがあります。先生たちが現場で利用したり、参考にしたりできるように、このテストが開発されました。

当日は、実際にテストの紹介に入る前に、このロールプレイテストの土台になっている JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダード）について紹介しました。JF スタンダードでは、日本語の熟達度をヨーロッパの CEFR に基づいて 6 つのレベルに分けています。また、「JF スタンダードの木」でコミュニケーション言語能力とコミュニケーション言語活動が関連し合っていることを示しています。このテストでは、口頭でのやりとりの活動に焦点をあて、A1・A2・B1・B2 のそれぞれのレベルでパフォーマンスを測ることができます。

テストの特徴は、次の 5 つです。

1. JF スタンダードの 6 レベルの基準を使って判定できる
2. ロールプレイを通して、「口頭でのやりとり」能力を測ることができる
3. 短時間（約 15 分）で実施できる
4. テスターは特別なトレーニングを受けずに実施できる
5. タスクや進め方を教育現場に合わせることができる

会話テストを経験したことのない人にもわかりやすいように、このテストには、テスト用キットが用意されています。テスト用キットは、各レベルのロールカード、判定用記入用紙、テスター用ガイドライン、動画・サンプル音声から成っています。

これらの特徴について確認した後、会場では、参加者はペアで模擬的にテストと受験者役を交代で体験しました。最後に、会話能力を評価するという点について、テスト体験を通じて感じたこと、疑問点などを交えて話し合いました。実際にテスト体験をしたことで、ロールプレイテストについて具体的にわかってよかったという声が聞かれました。

テスト開発関連研究：

磯村一弘、三矢真由美（2011）「JF 日本語教育スタンダード「みんなの「Can-do」サイト」を用いたレベルチェックテストの作成」『ヨーロッパ日本語教育』（16）171-175.

磯村一弘、長坂水晶、押尾和美、篠原亜紀（2014）「JF 日本語教育スタンダードに準拠した A2～B2 レベルの口頭テストの開発ーロールプレイで測る「やりとり」の課題遂行能力ー」『ヨーロッパ日本語教育』（18）157-162.

長坂水晶、押尾和美（2013）「JF 日本語教育スタンダードに準拠した口頭テストー課題遂行能力測定のためのロールプレイタスクと評価指標の作成ー」『言語文化と日本語教育』46号 70-73. お茶の水女子大学日本言語文化学会